

正 誤 表 (2019年9月25日作成)

	誤
P53	①、②、④、⑤ (○) 適切。記述のとおりです。
上から2行目	<p style="text-align: center;">正</p> <p>①、②、④、⑤ (×) 不適切。その理由は以下のとおりです。</p> <p>①「I 底質採取法」の「3. 採取方法」で「エクマンバージ型採泥器またはこれに準ずる採泥器⁽¹⁾によって、原則底質表面から10cm程度の底質を3回以上採取し、それらを混合して試料とする。」と説明されており、“10回以上”の記述が誤りです。</p> <p>②「I 底質採取法」の「5. 採取時の試料の調製」で「注(1) 硫化物は不安定で空気にさらされると揮散したり酸化したりするので、亜鉛アンミン溶液を加え、現地で固定する。」と説明されており、“実験室に持ち帰った後”の記述が誤りです。</p> <p>④「II 分析方法」の「4. 一般項目 4.3 泥分率 (1) 測定方法の概要」で「底質を目開き75μmのふるいで砂分(ふるい残留分)とシルト・粘土分(ふるい通過分)にふるい分けし、砂分の質量を測定し、シルト・粘土分の割合を求めるものである。」と説明されており、“2mmのふるい”の記述が誤りです。</p> <p>⑤「II 分析方法」の「4. 一般項目 4.9 りん 4.9.1 全りん (1) 測定方法の概要」で「試料の前処理法として、硝酸-過塩素酸分解法と硝酸-硫酸分解法がある。いずれかの分解法で前処理分解した試料を、モリブデン青(アスコルビン酸)吸光光度法で測定してりんを定量する。」と説明されており、“ペルオキシ二硫酸カリウム分解法”の記述が誤りです。</p>

	誤
P53	③ (×) 不適切。
上から3行目	<p style="text-align: center;">正</p> <p>③ (○) 適切。</p>